

## 第5次安堵町総合計画・第2期安堵町総合戦略策定 若者によるまちづくりワークショップ 活動報告書（暫定版）

### 開催趣旨・日時

このワークショップは、令和4～13年度の10年間のまちづくりの方向を定める「第5次安堵町総合計画・第2期安堵町総合戦略」の策定において、これからの安堵町のまちづくりを担う若い世代を中心に、まちづくりに対する思い、ご意見・アイデアをお聞かせいただくために行いました。

密を避けるため、口の字型のテーブルに間隔を空けて4名ずつ座り、画用紙とイーゼルを使ったグループワークを実施しました。

	日時・場所	テーマ	参加者数
第1回	令和3年2月27日（土）10時～12時 役場3階会議室	安堵町の強み・弱み	12名 （うち職員3名）
第2回	令和3年3月13日（土）10時～12時 役場3階会議室	安堵のいいところ みんなで伸ばそう	12名 （うち職員4名）

### 進行の流れ

時刻	内容	備考
10:00	開会・手順説明	
10:06	自己紹介・私の好きなまち	班内で自己紹介。「私の好きなまちとその理由」を地図に、シールを貼り、班内で発表しあう。
10:20	自由討議	「安堵の強み・弱み」（第1回） 「安堵のいいところ みんなで伸ばそう」（第2回）
10:30	画用紙記入	各自が画用紙に書く。
10:35	読み上げ	班ごとに、1人ずつ、読み上げて、各自のイーゼルに立てる
10:50	画用紙並べ	ホワイトボードに、関係性に配慮しながら磁石で貼る
10:55	休憩	
11:05	再討議	
11:15	画用紙記入	「追い紙」を各自が画用紙に書く。
11:20	読み上げ	班ごとに、1人ずつ、読み上げて、各自のイーゼルに立てる
11:30	画用紙並べ・発表準備	ホワイトボードに、関係性に配慮しながら磁石で貼る
11:40	発表	班ごとに、代表者が3分程度で発表する。
12:00	閉会	

## 第1回安堵町住民ワークショップでの意見（画用紙に記載された内容）

### 【安堵町の良いところ】

- ◆町内に駅はないが、交通の便はさほど悪くない
- ◆町内運動会が楽しい
- ◆住民の部活動は充実している
- ◆小さい街ならではの人と人の付き合い 顔が見える環境
- ◆保育園、学校が少人数
- ◆田んぼが多い、園庭が広い
- ◆長閑な空気が流れている。穏やかな感じ
- ◆お世話好きな人がたくさんいて優しい感じ
- ◆子供たちの見守りがしっかりしていて子供が生き生きしている
- ◆地域の人同士の距離が近い
- ◆大きな地域よりも役場の方との連携がとりやすい
- ◆人が優しい
- ◆のんびりしているところ
- ◆土地が安い
- ◆スポーツ祭がある
- ◆適度な田舎
- ◆高速道路にすぐ乗れる
- ◆少人数だからこそできるキメの細かい学校生活
- ◆仲良くなりやすい

### 【安堵町の悪いところ】

- ◆内輪的な風潮が存在し、よそ者扱いの意識がある
- ◆町民数は少ないが一体感がない
- ◆観光業がなく、人の移動が少ない
- ◆街としてのポジションが中途半端
- ◆教育現場において少人数を活かせていない
- ◆声かけ、挨拶が少ない
- ◆カカシがただあるものになっていて、活かせていない
- ◆外から入ってくる人はなじみにくい
- ◆町外に目が向いていて、町内のことに関心が薄い
- ◆店、病院が少ない
- ◆学校で部活が少ない
- ◆町のお金の使い方が下手
- ◆教室は空いているのに生徒の自習スペースがない
- ◆年配の方と若い世代の交流がない
- ◆少人数を活かせていない
- ◆保育施設が不十分
- ◆人、子供が年々減少し、転出者が減少している
- ◆町の魅力となるものがない

- ◆スーパー、飲食店等何もない
- ◆交通の便が悪い
- ◆住民が安堵町を知らない
- ◆カカシのイメージが悪い
- ◆子供が少ない
- ◆駅までのアクセスが不便
- ◆祭りが無い

#### 【施策の提案】

- ◆灯芯等の後継者の育成
- ◆野菜作り等農作業のノウハウに関して、農作業をやりたい人と教えられる人が一定数存在するので、お互いにメリットのある交流ができるまちづくり
- ◆教育現場において少人数を活かしていないので、少人数を生かして塾に行かなくても学力が高い街を目指す。具体的には学力別にグループ分けをし、個別指導を行う。また学校行事を簡素化して教員の負担を減らし、学力の底上げを行う。将来的には全国のモデル校を目指す
- ◆学校の中に外部のコーチ、先生がいないので入れて欲しい
- ◆町内にボランティアで勉強を教えてくれる大学生などがいるはずなので、有効活用して学力の差をなくしてほしい
- ◆カカシを活かす
- ◆道路整備を兼ねてサイクリングロードを作ってみる
- ◆農家の直売所を活用する
- ◆高齢者や農家が多い分農業振興に特化したまちづくり
- ◆少人数学級を生かした教育の推進
- ◆歩道の整備
- ◆適度な田舎を残しつつ、人を減らさない
- ◆世代を超えた交流
- ◆フォトロケポイントの設置
- ◆フリーマーケット
- ◆老人会の食事亭
- ◆交流の場をもっと作っていく

## 第2回安堵町住民ワークショップでの意見（画用紙に記載された内容）

### 【1班の前半の検討】

- ◆少人数を活かす教育
  - 一斉学習と理解別学習
    - 先生にも負担の少ないカリキュラム、行事
  - 学習以外の学校生活の充実
    - 外部のコーチ、ボランティアの活用
- ◆農地の活用
- ◆地元野菜を無人販売
  - 気軽に立ち寄ることができるのが良い
- ◆歩道の整備
  - 雑草の対策
- ◆野菜の無人販売のあるところをマップにして教えて欲しい
- ◆町民体育祭等が強制されている感じがあるので、もっと気軽に参加できるようにして欲しい
- ◆こどもの学力格差を少しでもなくして欲しい
- ◆小さい地域であることを活かす
- ◆交流
- ◆「安堵町といえば…」というものを作りアピールする

### 【1班の掲示内容】

- ◆食育
  - 二つの作物を育てる苦勞
  - 料理によって他の食材との相乗効果
  - 理科、家庭科的目線で行ってみて欲しい
- ◆地域の人々との交流を通じた教育(古代米づくり、農作物、灯芯づくり等)
- ◆学ぶに遊びの要素を入れていく 例)子供会の要素
- ◆地域の人と学校を結ぶ
- ◆地域の人から学ぶ
- ◆学校の先生と地域の人と一緒に作る授業
- ◆農業、食育、体力、物づくり
- ◆町は小さい地域であることを活かす
- ◆街は農を通じ交流を作る
- ◆町は教育を充実させる
- ◆町は、未来ある子供に残せる伝統や、生きる上での知恵を、交流の中で遊び、心に乗せて教えていく

## 【2班の前半の検討】

- ◆若い人が利用できる施設を作る  
例…スケートボード、BMX、バスケット、クライミング
- ◆祭りがないので子供たちの楽しみを作ってあげる 祭りを通して大人の輪も広げる
- ◆交通の便も良いと思うので、土地の広さを生かして農家さんとタイアップした朝市など企画する
- ◆田んぼ、畑で住民交流
- ◆小中学校学力別学習
- ◆保育園のびのび教育
- ◆発表会、運動会より外遊び
- ◆町外からの道を一本整備  
郡山、斑鳩、川西等隣町につながる一つの道を整備することで町の活性化につながる
- ◆灯芯祭の開催
  - 祭りにメディアを呼ぶ
  - 灯芯を作るだけでなく、作った灯芯を使って火をつけ、昔の衣装に着替えてゴール
- ◆店の誘致
- ◆教育の充実
- ◆個性、特徴

## 【2班の掲示内容】

- ◆街は独自性をもつ
- ◆町は子供を楽しませる
- ◆町は人をつなげる
- ◆町は暮らしを教える
- ◆遊ぶところ、学ぶところがあればいいと思う
- ◆スポーツ(BMX)の町、多言語(英語)の町、文化工芸(灯芯)の町、農業(大根)の町
- ◆持続と発展のためには人とのつながり  
田んぼ教育、朝市、祭りなどで意識高い系町民
- ◆町は暮らし(生活するために必要な力)を教える→つながり 教育(学校教育+生涯学習)  
→個性→個性の町
- ◆子供を中心に。子供が生き生きすれば全ての人に連鎖する

### 【3班の前半の検討】

- ◆少人数教育を活かす
- ◆住民を巻き込める政策
  - 広報の仕方の見直し
  - 住民との距離感
- ◆安堵町をどのような街にしたいか
  - 特徴を全体で把握
  - 全ての世代を巻き揉むための工夫
- ◆民間を巻き込む
- ◆祭など住民を巻き込めるイベント
- ◆年配者が活躍できる場
  - 子供食堂
  - 伝統工芸
  - 教育に関わる農業など
- ◆学習◆スポーツ
  - 安堵町だけでは難しいので他町とのスポーツごとの連携
- ◆少人数を生かした教育環境づくり、教育の推進
- ◆高齢者の外出促進
  - 街を歩く ウォーキングによる健康ポイント付与等の制度
- ◆高齢者の増加がさらに見込まれるので生きがいづくりも含めた活動推進
- ◆住民数の減少が考えられるため、少数人口を生かした取り組み
- ◆交通手段の確保をするため、コミュニティバス以外の移動手段の検討

### 【3班の掲示内容】

- ◆町は欠点をプラスに変える
- ◆町は少人数教育を推進する
- ◆町は少人数 人口規模を活かした教育、スポーツ等環境づくりを推進する。町単独ではなく、広域的連携も視野に
- ◆町は住民を巻き込む
- ◆大多数である、町づくりに関心はないが不満はある人に関心を持ってもらえるような広報
- ◆広報のやり方の見直し
  - 全世代への住民への情報伝達
  - 全ての人が意見を言える場
  - イベントやスポーツの広域連携
  - 色々な世代の交流
  - 住民サービス向上のためのIT化
- ◆住民主導の町
- ◆町と住民の関わり、関係
  - 住民の声が届く機会の提供
  - 小さな町という利点を生かした密接な関係の構築
- ◆高齢者による農業指導や中学生が小学生に学習を指導するなど行政が主導となり行っている事業、物事へのまちづくりへの住民の参画の促進